しろちどり

第 122 号

2024 年 9 月
日本野鳥の会三重　http://miebird.org/

日本一のシギ・チドリの渡来地「大授搦」とは

津市　今井 光昌

今年の春、国内最大の渡りの中継地である佐賀県の東よか干潟に春のシギ・チドリを見に行って来ました。バーダーの間では東よか干潟を大授搦（だいじゅがらみ）と呼ぶ人が多いです。大授搦は佐賀県の有明海北部に広がる泥質の干潟で、潮の干満差が日本一大きく、干潮時には広大な干潟が姿を現します。潮が満ち干潟が小さくなってくると、遠くにいるシギ・チドリの群れが一斉に飛び立ったり、目の前を横切ったり、旋回したりします。その圧倒的な数と迫力に、とても感動しました。大授搦はシギ・チドリの渡来数日本一を誇ります。

図 1　大授搦の干潟上を飛ぶシギ・チドリの群れ

目次

日本一のシギ・チドリの渡来地
「大授搦」とは ---------- 2
表紙の言葉 ---------- 2
2024 年 ひるがの高原・
普正寺の森 宿泊探鳥会---------- 8
ハシボソミズナギドリの思い出 ----------10
国際サシバサミットに参加しました ----------12
ツバメの見守り ありがとう
～ツバメの子育て応援事業～ ----------14
志登茂川における
シギ・チドリ類の分布と食性 ----------15
野鳥記録 ----------16
推しの一枚　ハシボソミズナギドリ ----------19
2024 年度 日本野鳥の会三重 総会 ----------20
代表就任のあいさつ----------22
事務局だより ----------22
理事会報告 ----------23
探鳥会予告 (2024 年 10 月～ 12 月) ----------23
探鳥会報告 (2024 年 4 月～ 7 月)----------24
編集後記 ----------28

表紙の言葉

オオミズナギドリ

津市　平井 正志

翼を広げると 120cm にもなる、大型の海鳥。三重県でも紀北町紀伊長島沖の大島で繁殖する。といっても、会員にはなじみの薄い鳥であろう。陸地にめったに近づかず、フェリーなど、外洋を航行する船から見る以外に、目にする機会は少ない。もっとも、近年、秋の一時期、鈴鹿川河口付近の海岸に近づく個体があることが分かってきた。海上では波頭のすぐ上を帆翔と羽ばたきを繰り返しながら優雅に飛び続ける。波で生じるわずかな上昇気流を利用しているのだろう。繁殖の時に島に降りる以外は一生を海で暮らす。詳しくは「しろちどり」104 号の記事を見られたい。

図 2　柵越しに水鳥を観察するバーダー

三重県の雲出川河口や金剛川河口の干潟でもシギ・チドリの大きな群れを見ることはありますが、数は多くても 1,000 羽を超えることはありません。それが大授搦では 4,000 ～ 5,000 羽とも言われています。噂に聞いていた大授搦のシギ・チドリは想像以上の数でした。

潮の干満差は日本海側では小さく、太平洋側では 2 ～ 3m 程度ですが、有明海の干満差は最大 6m もあるそうで、大潮の満潮近くになると干潟の鳥たちは満ち潮に追われるように柵の近くまでやって来ます。日によっては柵の上に乗ったり、柵の内側に入ったりすることもあるそうです。有明海の潮位をネットで調べ、潮位表で潮高が 5m を超える日を選び、5 月 7 日から 5 月 10 日の 4 日間、大授搦を訪れました。とはいえ。潮位は風向きや風の強弱によって予測通りにならないことがあります。5 月 9 日以外は思ったより潮が小さく干潟が 50 ～ 100m 残りました。

干潟との境には柵があり、柵の手前からの鳥見になります。大授搦は東西約 2km あります。バーダーは干潟に入ることはできません。

図 3　シチメンソウが広がる大授搦の海岸

干潮時は柵の向こうに広大な泥質干潟が広がり、柵の手前の海岸には、世界的にも珍しく、日本では九州の限られた地域でしか見ることが出来ない塩生植物で、絶滅危惧種のシチメンソウが群生しています。「海の紅葉」ともいわれるシチメンソウの紅葉の時期は晩秋で 10 月下旬から 11 月中旬にかけて、大授搦の海岸を真っ赤に染めるそうです。一度は見てみたい「海の紅葉」ですが、紅葉の時期がシギ・チドリの春・秋の渡りとずれる為、渡りと一緒に見られないのが、シギ好きな私には残念です。

図４　線状に広がり採餌するシギ・チドリの群れ

図５　近寄って来たシギ・チドリ

図４のような横長に延びた群れが数か所に分散して見られました。この日は満潮時になっても80 ～ 100m の干潟が残りました。

干潟が多く残っていれば鳥も遠くなりますが、5 月 9 日は潮が柵の近くまで押し寄せて来て干潟はほぼ無くなりました。鳥たちも柵の 10 ～ 30m まで近寄ってきました　群れの中に珍しいシギ・チドリがいないかを状況に応じて、カメラや双眼鏡で、望遠鏡で探しました。鳥は密集した群れの中で動くし、時にはカラスも襲ってきて一斉に飛び立ったりします。三重県ではカラスがシギ・チドリを襲うのを見たことはありませんが、大授搦のカラスは猛禽化しています。目の前でハマシギがカラスに食べられてしまいました。

図４の距離では鳥個々の撮影は無理ですが、図５の距離だと鳥が重ならなければトリミングすれば種の識別が出来る画像にはなります。5 月 9 日は 500mm のレンズに 1.4 のテレコンを装着していました。密集している群れの中の鳥を双眼鏡または望遠鏡で確認してからカメラに持ち替えるので、狙った鳥から一時的に目を離すことになり見失ってしまったりします。最も撮りたかったヒメハマシギがそうでした。望遠鏡で見つけて、カメラに手を伸ばしたその時にカラスが群れを襲いました。群れが一斉に飛びあがったため、ヒメハマシギを見失い、その後も、その次の日も探せず残念な思いをしました。大授搦で観察した 20 種のシギ・チドリの内、地元三重県で見ていないのはヒメハマシギだけだったからです。個々の撮影には鳥が多すぎるのも良いことばかりではありません。鳥の少ない三重県の方が個々の撮影にはいいなとも思いました。

2024 年 5 月 7 日から 5 月 10 日の間に大授搦で観察したシギ・チドリ類は 20 種でした。
メダイチドリ、オオメダイチドリ、ムナグロ、ダイゼン、ヒメハマシギ、キョウジョシギ、トウネン、ウズラシギ、ハマシギ、サルハマシギ、コオバシギ、オバシギ、キリアイ、シベリアオオハシシギ、アオアシシギ、キアシシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、ホウロクシギ、チュウシャクシギ

図 6　左からメダイチドリ、メダイチドリ
サルハマシギ、ウズラシギ

図 7　オオメダイチドリ
寝ているのはトウネンとメダイチドリ

図 8　オバシギ

図 9　キリアイ

図 10　コオバシギ

図 11　シベリアオオハシシギ

図 12　飛び交うシギ・チドリ達とヘラサギ、クロツラヘラサギの混群

図 13　騒ぐシギ・チドリ達 ヘラサギとクロツラヘラサギは合わせて 20 羽いました

図 14　飛び交うシギ・チドリの群れ

大授搦を訪れ、これほど多くのシギ・チドリが集まる場所が国内にあったのだと知りました。全国的に減少しているシギ・チドリですが、三重県でも、近年増えているミヤコドリを除くと、シギ・チドリは著しく減少しています。大授搦にいるとシギ・チドリの減少など頭に浮かんでこない。ここは日本一の渡来地だということを実感しました。

大授搦は満潮・干潮の時刻と潮位を意識して出かけないと、せっかく訪問したのに、干潮なのに、鳥が見られない、そんな状況に陥ってしまうかもしれません。大授搦の鳥見は潮位が 5m を超える日の満潮２時間ほど前から、満潮前後の鳥見です。

なお、大授搦の干潟では水鳥だけでなく三重県では見ることのできない泥質干潟特有のユニークな生き物も楽しめます。ムツゴロウやトビハゼなどです。ムツゴロウが近くに現れると興奮してシャッターを押していました。佐賀県に行けばどこにでもいるだろうと思っていたカササギは、そうではなかった。カラスとの競合で絶滅の危機にあるとか。訪れて初めて分かることもありました。

図 15　カササギ

図 16　カササギ

図 17　ムツゴロウ

図 18　トビハゼ

大授搦での水鳥の観察は 4 日間とも条件の良い午前中で切り上げ、午後からは田園のカササギ探しと、佐賀市と小城市の公園を巡りました。池のある整備された公園がいくつかあり、トンボが棲みやすい環境が整っていましたが、トンボは時期が合わなかったのかほとんど見ることはなかった。また、秋の渡りの９月か、シチメンソウが紅葉する 11 月に大授搦を再訪問したいと思っています。

2024 年　ひるがの高原・普正寺の森宿泊探鳥会

宿泊探鳥会の思い出

鈴鹿市　加藤智明・義浩

最初ひるがの高原で歩いていると、笹間さんがイカルを教えてくれました。初めて見られたので嬉しかったです。色の白いモズは高原モズということも初めて知りました。

健民海浜公園では、コガモやマガモがまだ見られたことと、すごい数の海鳥がいてびっくりしました。水車の裏で長い時間待っていたら、ヤマガラが来て、一緒にいた中学生のお兄ちゃんが写真に撮って見せてくれました。

鳥のことだけじゃなくて、桑の実も教えてもらって初めて食べました。甘酸ずっぱかったです。美味しかったからまた食べたいです。他にもコンクリートから突きぬけたタケノコやクロベンケイガニやテントウムシのサナギなどいろいろなものが見られました。

バスの旅は初めてで緊張したけど、野鳥の会の人たちといっぱい鳥の話ができていい思い出になりました。あっという間の旅だったけど、また来年も行きたいです。

ありがとうございました！

ひるがの高原・湿原植物園にて

金沢・普正寺の森にて

宿泊探鳥会レポート

四日市市　谷口 広吉

津、桑名で貸切バスに乗り探鳥地を目指し出発。車内では、自己紹介や会員出演番組の放映も。

初日の探鳥地、ひるがの高原湿原植物園。到着後すぐ、カッコウの鳴き声も。

高原の植物にとまる鳥たち。よく見るモズも、どこか違って見えるような？

約２時間の探鳥を終え一行を乗せたバスは宿泊地、金沢駅前へ向かいます。

金沢駅兼六園口には「鼓門」。鼓を使う能楽が石川の伝統芸能のひとつだそう。夜にはライトアップされ、観に行った参加者も。そばのビル上ではチョウゲンボウも見られました。

２日目探鳥地は金沢市普正寺の森。日本海に面した森と河口と海岸が揃った、多種多様な野鳥が見られる貴重な探鳥地。鳥だけでなくカニなどの生物も豊富。

今回は野鳥の会石川の方々のガイド付き。日本野鳥の会石川県支部 代表 白川さん、副代表 増川さんには大変お世話になりました。

川沿いに出た所で、複数のカモ達と遭遇。マガモ、ヒドリガモ、コガモに加えオオバン。「君たち、もう六月だよ・・・？」と思ったのは私だけでしょうか？

日本海です。思い思いに鳥を探したり砂浜を歩いたり。また行ってみたいですね。

ちょっと珍しいコムクドリとホオジロのコラボ。

少し沖には多数の鳥影がありましたが、識別には至らず。

昼食、休憩をはさみつつ三重に帰ります。高速PAではツバメの子育て風景も見られました。梅雨直前でも雨に降られることなく無事帰宅。おつかれさまでした。楽しかったです♪

ハシボソミズナギドリの思い出

津市　平井正志

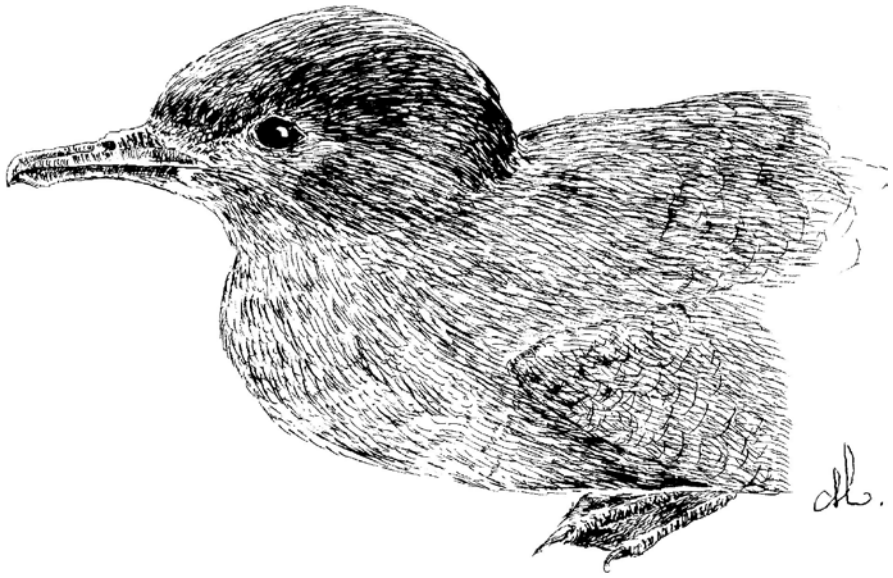
思いがけず、本号の「推しの一枚」にハシボソミズナギドリが載った。私とこの鳥との接点はわずかながらある。初めは津の海岸、町屋浦である。2010年6月にたくさんのハシボソミズナギドリが死んで、海岸に打ち上げられた（図1）。豊津浦の方まで多くの死体が見られた。このミズナギドリは時々このように大量死するようである。最近でも春から夏にかけて、日本各地の海岸で、死体が打ち上げられているようである。餓死らしい。山階鳥類研究所のホームページに、詳しい解説がある（岡　2011）。かといってこの鳥は膨大な数が生息しているので種の存続が危ぶまれるわけではなさそうである。それ以降現在まで、三重の海岸に大量に打ち上げられたとの話は聞かない（Skira 1991）。

（図1）海岸に打ち上げられた
ハシボソミズナギドリの死体
2010年6月9日　津市 町屋浦海岸

海岸からこの鳥を見ることはまずない。陸地にはめったに近づかない海鳥である。しかし、外洋ではしばしば見かける。退職してから、春と秋、太平洋フェリーで苫小牧と名古屋を行き来することが多くなった。陸地から遠く離れた外洋でフェリーから見る鳥はこのハシボソミズナギドリとオオミズナギドリの2種である。もっとも別の種類のミズナギドリが少数混じっているかもしれないが、フェリー船上から同定は難しい。

2013 年 5 月、北海道へ渡る途中、福島沖でフェリーの甲板の隅でこの鳥が 2 羽うずくまっているのを見つけた。あやまって船に降りたのであろう。この鳥を繁殖地で見たことはないが、おそらくオオミズナギドリと同様に地上では動きが鈍いのだろう（平井 2020）。飛び上がるのに助走が必要なはずであるが、狭い場所では助走もできず、飛び上がれない。地上を走り回ることもおぼつかない、よちよち歩いて逃げるくらいしかできないのだろう。

その鳥はどこも骨折していないようだし、衰弱もしていなかった。おとなしくしていたので、隣に座り込み、スケッチさせてもらった。ずっとおとなしくしていた（図 2）。翌日同じ場所を探してもどこにもみつからなかった。きっと、昨夜甲板で助走して海に飛び立ったのであろう。



（図 2） ハシボソミズナギドリ
太平洋フェリー船上でのスケッチ
2013 年 5 月 31 日、福島沖

ミズナギドリ類はとりわけ長い翼を持っている（図 3）。上空に高く舞い上がることはほとんどない。海面すれすれ、波頭のすぐ上を、波で起こる上昇気流をその長い翼でとらえ、滑空とわずかに羽ばたくだけで、巧みにそして、いつまでもいつまでも、飛び続ける。海こそがこの鳥の棲家である。

この鳥はオーストラリア南東部やタスマニア近海の小島で繁殖する。この鳥が陸に降りるのは繁殖の時だけである。ヒナに餌をやる親鳥は南氷洋の氷のふちまででかけて餌をとるという。春から夏、日本近海の外洋を北上し、アリューシャン列島を越え、ベーリング海まで達し、秋にカリフォルニア沖を南下し、元の南半球まで戻る長大な移動をするという (Onley and Scofield 2007, Skira 1991)。

また、どこかでこの鳥と会いたいものである。

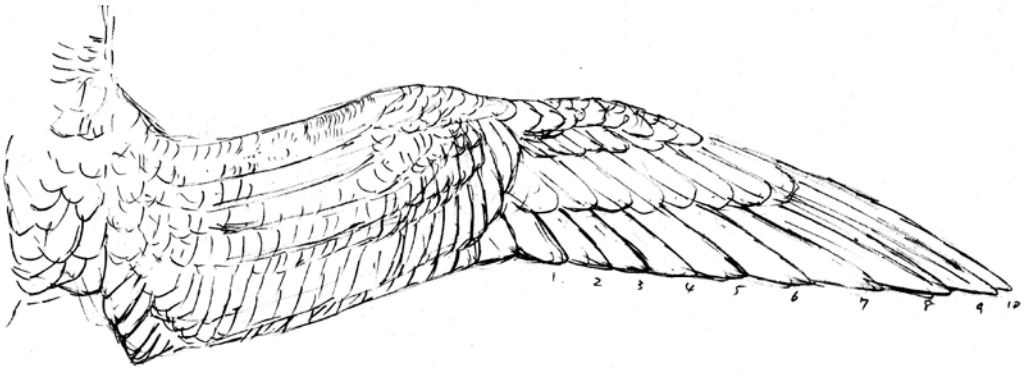
引用文献

Onley, D. and Scofield, P. (2007) Albatrosses, Petrels, and Shearwaters of the World. Princeton University Press, Princeton and Oxford.

平井正志　(2020) オオミズナギドリの思い出　しろちどり 104 号　6-7.

岡 奈理子 (2011) ハシボソミズナギドリのストランディング（漂着）現象について https://www.yamashina.or.jp/hp/yomimono/hashibosomizunagi/hasibosomizunagi.html　2024 年 5 月 29 日閲覧

Skira, I. (1991)The short-tailed shearwater: A review of its biology. Corella. 15: 45-52



（図 3）ハシボソミズナギドリの翼（上面）
津市 町屋浦に打ち上げられた死体の中から
程度のよいものを家に持ち帰り、スケッチした。

国際サシバサミットに参加しました

四日市市　笹間 俊秋

国際サシバサミット

国際サシバサミットは2019年6月に栃木県市貝町で第1回が開かれました。翌年､第2回目を宮古島で開催される予定でしたがコロナ禍により延期､2021年10月に宮古島で再開､2023年10月には初の海外の台湾で開催されました。そして2024年3月24､25日にフィリピンのサンチェス・ミラにて第4回目が開催されました。

サンチェス・ミラ、サシバサミット会場

サミット参加

私は第1回目の市貝町で開かれたサミットへ足見川ソーラー建設計画とサシバ繁殖状況を報告するため、ポスター発表で参加させていただきました。第2回目も参加したかったですがコロナ禍のため断念しました。今回の開催地サンチェス・ミラはフィリピン最北の地で交通機関が乏しく､日本から個人で行くのは困難ということで日本の実行委員の方々はツアーを組んで渡航することになりました。そして参加人数に余裕があるため､以前ポスター発表などで参加した人へも参加を呼びかけられました。私も足見川サシバ繁殖の現状を報告したいと考えたためツアーへ参加することに決めました。

フィリピン・サンチェス・ミラへ

サンチェス・ミラはフィリピン最北部に位置する自然豊かな都市です。工場などはほとんど無く､海岸部に沿って水田が広がりすぐ側には険しい山々が迫ります。訪れた3月下旬でも気温は30度前後とかなり蒸し暑い気候でした。3月22日に日本から1日がかりで現地へ到着。

アカカンムリハチクイ

カッコウサンショウクイ

フィリピンカンムリワシ

シラボシガラ

翌23日はフィリピン政府の許可を得て外国人としては初めてエバ・バゾンの自然保護地区に観察へ向かいました。早朝6時にバスで3時間かけて現地へ到着。観察ポイントでは周囲から様々な鳥の囀りが聞こえてきます。アカカムリハチクイ、カッコウサンショウクイ、ブッポウソウなどの大型昆虫を捕食する鳥類。フィリピンカムリワシ、フィリピンクマタカなどの大型猛禽類が観察できました。

国際サシバサミット開会

3月24日､市庁舎前の道路を閉鎖してオープニングセレモニーが開かれ市内の中学生・高校生が動員され盛大にダンスで歓迎をうけました。広場ではバザーも催されてお祭りのような雰囲気の中、ホールではサミット基調講演、各地からサシバに関する報告がされました。私の持っていった野鳥の会三重のポスターも会場へ掲示され、休憩時間に様々な人に見てもらいました。講演も終了し夕方に場所を近くの水田へ移動し、越冬していたり東南アジア方面から移動してきたサシバが山でねぐら入りする姿を観察しました。水田には3月下旬にもかかわらず稲が穂をつけ虫やカエルなどが見られます。そしてカワセミ、アカモズ、オニセッカなど日本の水田とは少し違った鳥たちが生息しています。

オニセッカ

渡りのサシバ

翌日 25 日の早朝に Nagbaranganan View 公園にて渡りのサシバを観察。上空を 2000 羽以上のサシバがタカ柱を形成して北上していく姿が見られました。このサシバの大群は台湾付近で大陸へ向かう群れと南西諸島から日本へ向かう群れに分かれていきます。さらに九州へ来た群れは本州と朝鮮半島へ向かう群れへと別れます。サシバに GPS を付けた調査によると越冬地から渡りはじめると大体 10 日から 2 週間で営巣地へたどり着くそうです。私たちが想像していたよりも早いスピードで渡りをしていることが分かりました。

サミット終了

2 日間にわたって開かれた国際サシバサミットですが、次回は鹿児島県の奄美大島・宇検村で開かれることが決まっています。最後にフィリピン・サンチェスミラ市長から宇検村村長へバトンが引きつがれました。今後はブルネイやマレーシアなどもサミットを開きたいという意向が示されています。国際サシバサミットという事で様々な国がサシバの保護に関心を示しています。しかし肝心の営巣地からの参加は栃木県・市貝町だけで、他は渡りの地か越冬地ばかりです。日本の市町村はサシバの営巣地にはあまり興味がないことが多く、どちらかというと開発中心で営巣地を保護するというよりサシバの営巣が障害になりうると考えているのではないでしょうか。今後、私たちはサシバの保護を通じて営巣地の自然環境を守っていく必要があると思います。

Nagbaranganan View 公園の観察小屋からの眺め

2000 羽を超える渡りのサシバ　タカ柱

サンチェス・ミラ市長（左）から宇検村長へ引継ぎ

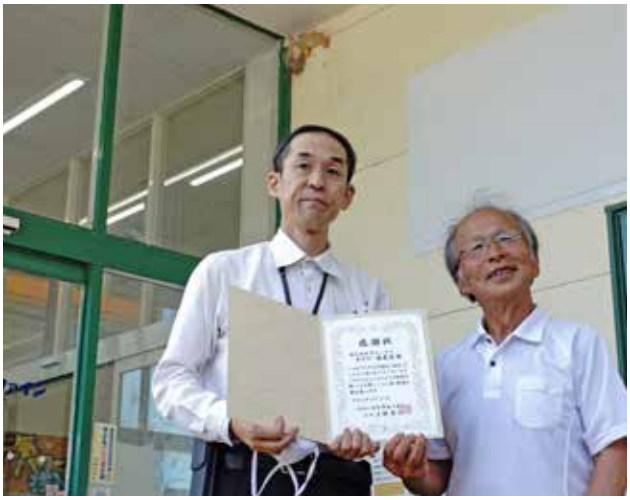
謝辞

今回、国際サシバサミットへ参加に際し、日本鳥類保護連盟、アジア猛禽類ネットワーク、日本自然保護協会、日本野鳥の会、東京大学、岩手大学、宇検村、奄美野鳥の会、宮古野鳥の会の方々には大変お世話になりました。ありがとうございました。

ツバメの見守り ありがとう　～ツバメの子育て応援事業～

玉城町　西村　泉

公益財団法人日本野鳥の会が2019年から始めた「ツバメの子育て応援事業」、今年度は県内２か所を推薦し、このほど野鳥の会三重を通して感謝状を贈呈しました。



左：北地店長　右：吉崎監事

６月 19 日（水）当会の吉崎幸一監事からぎゅーとらラブリー藤里店（伊勢）の北地文彦店長に、感謝状と見守りステッカーを手渡しました。

この店舗を表彰するきっかけとなったのは当会会員から「ツバメの巣を作らせない対策をとっているお店が多いなか、このお店はお客様と一丸となってツバメの子育てを見守っている」との情報をいただいたからです。同店にはトイレや外壁に５巣あり、うち２巣は「ツバメの家」と書かれた巣台の上にあります。巣台はお客様が手作りして自ら設置されたものだそうです。北地店長は、「毎年楽しみにしているお客様も多い。ツバメがくると縁起がいいというので今後も温かく見守っていきたい」と話されました。

「ツバメの家」と書かれた巣台で子育て

今回２例目となる多気町立勢和中学校には、数多くのコシアカツバメがいます。マスコミから当会へコシアカツバメについて問い合わせがあったことが、表彰する契機となりました。教頭の齋藤隆宏先生によると「今年からこの学校に赴任して校舎に多数のとっくり型の巣があることに驚き、調べたらコシアカツバメの巣とわかった」とのこと。職員用入口にもとっくり型の巣があり、フンよけのダンボールが設置してあります。

左：吉田校長　右：近藤代表

６月 20 日（木）同校に関係者が集まり、当会の近藤義孝代表から吉田武弘校長に感謝状とステッカーを手渡ししました。吉田校長は「自分たちの素晴らしい環境を再確認できた。生徒たちは感謝状をいただける環境で自分たちが育っていると認識してほしい」と語られました。齋藤教頭は「感謝状を頂いた以上、今後も見守っていきたい。子ども達にも発信していきたい。今は巣があるのが当たり前の生活で意識していないが、観察できる環境にいる。自然に教えてもらえることがたくさんある」と抱負を述べられました。

コシアカツバメの巣と親鳥

志登茂川におけるシギ・チドリ類の分布と食性

亀山市　豊田 彩絵

大学生の頃、卒業論文のテーマを探していた私は、偶然にも大学近くを流れる河川でシギ･チドリ類を目にしたことをきっかけに、彼らを研究対象にすることにしました。今回掲載していただいた文章は、その卒業論文をまとめたものになります。卒業論文執筆にあたって、野鳥の会三重の皆様には大変お世話になりました。この場を借りて感謝申し上げます。

目的

シギ・チドリ類は干潟生態系の捕食者であり、主に干潟の底生動物を餌とし、その食性は種ごとに異なるとされる。本研究では干潟におけるシギ・チドリ類の種ごとの分布を明らかにするために、三重県志登茂川の河口干潟において、1 年間シギ・チドリ類の観察を行った。また、シギ・チドリ類の食性との関係を明らかにするため、調査地内の底生動物の定量調査を行った。

方法

シギ・チドリ類の観察は 2022 年 12 月から 2023 年 11 月まで、原則毎月 2 回大潮干潮時に、志登茂川の河口から上流約 3km の間で調査を行った。調査は上流の A、B、中流の C、下流の D、E の 5 エリアに分け、堤防沿いを往復して目視と双眼鏡および望遠鏡で観察し、各種の個体数、採食行動を記録した（図 1）。また、調査地内の 10 地点において、2023 年 4 月から 6 月にコアサンプラーを用いた底生動物の定量調査と底質調査を行った（図 1）。

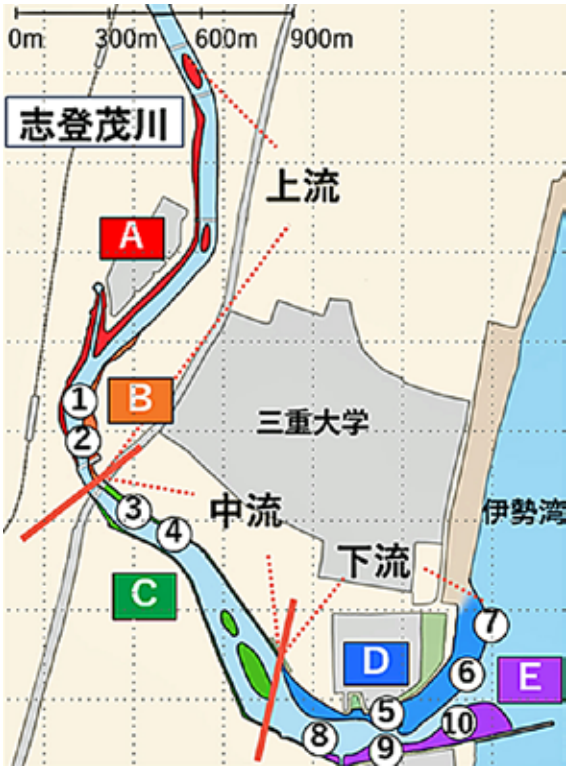


図 1：調査範囲

結果および考察

調査期間中にシギ・チドリ類は 13 種 2,439 羽が観察された。シギ科はハマシギ、キアシシギ、ミユビシギ、イソシギ、チュウシャクシギ、ソリハシシギ、キョウジョシギの 7 種、チドリ科はメダイチドリ、シロチドリ、ダイゼン、コチドリ、ケリの 5 種、ミヤコドリ科はミヤコドリの 1 種であった。優占種はハマシギ、キアシシギ、ミヤコドリ、メダイチドリ、イソシギで、これら 5 種は全体の 90％を占めていた。

ハマシギとミヤコドリは砂泥底とカキ礁の下流エリアに、キアシシギとイソシギは泥質の中流エリアに、メダイチドリは泥質の上流エリアにそれぞれ多く分布していた。底生動物調査の結果、個体数では、上流はイトゴカイ科とソトオリガイ、中流はイトゴカイ科とヤマトスピオ、下流はイトゴカイ科とアサリが優占し、湿重量では、上流はヤマトシジミとイソシジミ、中流はソトオリガイとイソシジミ、下流はアサリとオキシジミが優占した。一方、採食行動観察ではハマシギやメダイチドリはゴカイ科、キアシシギはカニ類、ミヤコドリは二枚貝類を採食している様子が多く観察された（図 2）。

底生動物の優占種と採食行動観察による種は必ずしも一致せず、底生動物のサイズやシギ・チドリ類の各種の嘴の長さによる、選択的な採食を行っていると考えられる。

図 2：二枚貝類を採食するミヤコドリ

野鳥記録（2024 年 4 月 21 日から 2024 年 8 月 1 日までに報告があったもの）

鳥の種類名	個体数	観察日	観察場所	雄 / 雌 / などの区別	記録報告者氏名	脚注
ノスリ	1	2024/04/18	紀宝町		沢本 浩志	1
ツバメチドリ	3	2024/05/11	御浜町志原		沢本 浩志	2
キアシシギ	2	2024/05/11	御浜町志原		沢本 浩志	3
キジ	1	2024/05/11	桑名市		佐々木 一夢	4
カッコウ	1	2024/05/18	津市白山町		前田　聰	5
ハシボソミズナギドリ	3	2024/05/22	紀北町長島		沢本 浩志	6
ブロンズトキ	1	2024/05/23	津市一身田		鈴村 公伸	7
コウライウグイス	1	2024/06/01	志摩市		濱屋 勝則	8
オオアカゲラ	2	2024/06/05	四日市市 宮妻峡		笹間 俊秋	9
サンコウチョウ	2	2024/06/08	四日市市 垂坂公園		今西 純一	10
オオコノハズク	2	2024/06/25	大台町	成鳥	中村 真理子	11
ハジロクロハラアジサシ	1	2024/06/30	松阪市	成鳥冬羽	中西章	12
クロハラアジサシ	20	2024/06/30	松阪市	成鳥夏羽	中西 章	13
カンムリカイツブリ	2	2024/07/15	南伊勢町 内瀬湾	成鳥夏羽	中西 章	14
サンショウクイ	80	2024/07/15	津市白山町	成鳥と幼鳥の混在	前田 聰	15
クロツラヘラサギ	1	2024/07/20	四日市市 鈴鹿川派川河口		渡邉 文孝	16
クロハラアジサシ	1	2024/07/23	松阪市 曽原大池		前田 聰	17
コウノトリ	2	2024/08/01	松阪市松名瀬町	幼鳥　雄	中西 まほ	18

脚注

1. 田んぼの脇で見かけました。ノスリより一回り大きく、精悍な顔つきをしています。
2. 水田の畦道で見かけた。
3. 水田でツバメチドリと一緒に行動していた。
4. 雌のキジだが脚から顔までの特徴が雄の個体。雄の特徴である肉垂は無く、2016 年に論文が出されている雌キジの雄変個体と思われる。2020 年に野生下での雄変個体が福井で撮影されているが、その他の情報はなかった。
5. 5 月 14 日に同地域で鳴き声を確認。18 日姿を発見、近くの木にとまり、確認した。2 ～ 3 羽が鳴き争い、縄張りを互いに主張する動きが見られた。
6. 海上でグライダーのように飛んでいた。飛翔時間はあまり長くなく、すぐに海面に降りた。
8. 木々の中でつがいで鳴きながら餌を探していた。
10. 2 羽が鳴きながら追いかけあっていた。写真は撮れず。
11. ペアで枝にとまっていたところに遭遇。ヒヨドリペアの猛追に森の奥へ飛んで行った。
12. クロハラアジサシ 20 羽の群れにやや違う個体があった。
13. 田園地帯なので、沼アジサシ系で間違いないと思った。
14. この時期夏羽を見るのは初めて。
15. 今回は約 80 羽の大きな群れで、上空を飛び回ったり、枯れ木の枝に停まったりする様子が見られた。約 30 分後、急な雷雨で、みんな一斉に移動して姿がみえなくなった。翌 16 日に再度、現地を訪れたが、2、3 羽が他のエナガやシジュウカラ、ヤマガラなどの幼鳥の群れの中に入って、飛び回る様子が確認できたが、前日の再現はなかった。
16. 1 羽だけで、さかんにエサを探していたが、なかなか獲れていなかったように思えた。なぜこの時期に、こんなところに来たのか！？
17. 曽原大池の上空を旋回する 1 羽を発見、魚を咥えて盛んに飛び回っていた。今季初認。
18. 夕方の水田地帯で仲良く採餌したり毛づくろいしたりしていた。雄の今年生まれの兄弟のようです。

オオコノハズク：中村 真理子

クロツラヘラサギ：渡邊 文孝

クロハラアジサシ：前田 聰

クロハラアジサシ：中西 章

ツバメチドリ：沢本 浩志

ハジロクロハラアジサシ：中西 章

カンムリカイツブリ：中西 章

カッコウ：前田 聰

ブロンズトキ：鈴村 公伸

コウライウグイス：濱屋 勝則

コウノトリ：中西 まほ

キジ：佐々木 一夢

オオアカゲラ：笹間 俊秋

ノスリ：沢本 浩志

推しの一枚　ハシボソミズナギドリ

熊野市　沢本 浩志

撮影者コメント

紀伊長島鳥獣保護区のカンムリウミスズメ等の海鳥調査で、環境省職員の方と耳穴島付近を漁船で周回しました。カンムリウミスズメは見当たらなかったですが、沖の方で３羽ほどがグライダーのように飛翔しており、近寄ると海面に浮かんでいる姿を確認しました。人を恐れていないのか船のすぐそばで羽根を休めていました。

ハシボソミズナギドリ

全長は 42cm 、翼開長は 97cm になる。オーストラリア南東部からタスマニアの近郊の島々で繁殖する。非繁殖期は北上して赤道を越え、日本近海ではほぼ周年観察されるが冬季は少ない。（編集部）

2024 年度　日本野鳥の会三重　総会

2023 年度活動報告

保護部

1. 木曽岬干拓地　チュウヒの繁殖保護
   2024 年 3 月雌雄を観察したが、つがい形成は確認できず。
2. フクロウの巣箱設置
   新たな巣箱の設置を行わず。
3. 足見川メガソーラーにおけるサシバの繁殖
   2023 年、東エリア幼鳥の巣立ち確認できず。西エリアは幼鳥 2 羽が巣立ち。
4. ミヤコドリ調査
   2023 年夏季 14 羽から 47 羽、冬季 231 羽から 238 羽であり、2024 年 2 月 16 日にはこれまでの最高個体数 238 羽を記録。
5. 三重県レッドリスト作成
   2022 年度から三重県レッドリスト改訂に取り組んでいる。会議や専門委員による調査を行った。

編集部活動報告

会報「しろちどり」の発行
117 号から 120 号までの 4 号を発行した。

【広報関係】

●ホームページ
システムのメジャー更新を行い新サイトを仮運用中。データを順次移設している。

●ツイッター　アカウント :wbsj_mie
主に探鳥会の開催を告知。

● LINE のグループトーク
「野鳥の会三重フリートーク」
活発に情報交換・交流が行われている。

研究部活動報告

1. カワウ調査
   2023 年 7 月に内水面漁協からの委託として、2023 年 12 月と 2024 年 3 月に三重県からの委託としてコロニー、ねぐらを調査した。
2. ガンカモ調査
   2024 年 1 月に県内 205 か所の調査を行った。
3. シギ・チドリ調査
   会員、および協力者により県下 7 か所が調査された。

企画部活動報告

合計 47 回の探鳥会と 1 回の宿泊探鳥会が実施された。

事務局活動報告

1. 総会　　2023 年 6 月 18 日 (日)
2. 理事会　　4 回開催した。
3. 中部ブロック会議　　延期された。
4. ツバメの子育て応援事業への協力
   感謝状贈呈先:株式会社 釣りエサ市場（大紀町）

2024 年度活動計画

保護部（抜粋）

チュウヒ調査、サシバ調査、フクロウの巣箱設置、ミヤコドリ調査を継続する。
チュウヒサミットを開催する。
太陽光発電、風力発電による自然の破壊、猛禽の生息環境撹乱に対処する。

編集部

しろちどりを年間 4 回発行する。その他、鳥類目録など必要な出版物を発行する。

【広報関係】

ホームページは、順次、新システムに移行させる。
ツイッターは引き続き、探鳥会の開催情報を告知する。
LINE「野鳥の会三重フリートーク」が健全に長く続くよう、運営する。

研究部活動計画

1. カワウ調査
   県の委託として 7 月、12 月、3 月の年 3 回の調査を予定。
2. ガンカモ調査
   県の委託として、調査する。
3. シギ・チドリ調査
   これまでの調査箇所に加えて、高松海岸などを調査地に加える。

企画部活動計画

67 回の探鳥会と 1 回の宿泊探鳥会を計画。

事務局活動計画

1. 総会　6 月 16 日（日）三重県教育文化会館
2. 理事会　年 3 回から 4 回を予定
3. 中部ブロック会議 2024 年 9 月 16、17 日
   長野県諏訪：参加予定

日本野鳥の会　三重　　令和6年度（2024年度）予算書

令和6年度　自2024年4月1日　　至2025年3月31日　　単位：円

科　目	令和5年度決算 一般・特別合算	令和6年度予算 一般・特別合算	比較増減	備　考	令和6年度予算会計区分	
					一般会計	特別会計
＜事業高＞						
支部会費	610,350	600,000	−10,350	2000円/1人	600,000	0
受託収入	2,245,240	1,480,000	−765,240	カワウ・ガンカモ・RDB	0	1,480,000
受取補助金	0	0	0		0	0
受取寄付金	0	0	0		0	0
事業高合計	2,855,590	2,080,000	−775,590		600,000	1,480,000
事業利益	2,855,590	2,080,000	−775,590		600,000	1,480,000
＜事業管理費＞						
支払調査費・報告費	1,368,083	884,000	−484,083	カワウ・ガンカモ・RDB	0	884,000
通信費	235,034	215,000	−20,034	会報送料他	163,192	51,808
印刷費	253,400	264,000	10,600	会報発行、行事	254,038	9,962
消耗品費	51,521	82,000	30,479	封筒代、事務用品	65,769	16,231
会場費	3,850	15,000	11,150		7,885	7,115
会議費	6,600	8,000	1,400		5,865	2,135
旅費交通費	430,758	334,800	−95,958	会議・調査・旅行補助等	170,192	164,608
支払手数料	22,000	22,000	0		6,346	15,654
講師謝礼金	11,137	30,000	18,863		30,000	0
図書費	0	3,000	3,000		865	2,135
チュウヒサミット費	0	200,000	200,000	会場費・旅費等	200,000	0
諸会費	5,000	5,000	0		5,000	0
雑費	62,643	92,700	30,057	HP・LINE費用、振込料	75,854	16,846
事務費	78,000	62,000	−16,000	カワウ・ガンカモ・RDB	0	62,000
保険費	177,860	155,500	−22,360	カワウ・ガンカモ・RDB	0	155,500
一般管理費合計	2,705,886	2,373,000	−332,886		985,006	1,387,994
事業総利益	149,704	−293,000	−442,704		−385,006	92,006
＜事業外収益＞						
受取利息	19	0	−19		0	0
雑収入	0	0			0	0
事業外収益合計	19	0	−19		0	0
当期純利益	149,723	−293,000	−442,723		−385,006	92,006
＜税金等＞						
法人税等	72,000	107,000	35,000		0	107,000
税引後利益	77,723	−400,000	−477,723		−385,006	−14,994

＊一般会計で385,006円の赤字、特別会計で14,994円の赤字、差引税引後利益は△400,000円となる。

代表就任のあいさつ

桑名市　近藤 義孝

2024 年 4 月から前代表の平井正志さんから、代表を引き継いだ近藤義孝です。平井さんは引退するのではなく、副代表として会の運営全般をみていただくことになっています。

日本野鳥の会三重は、1993 年 3 月 5 日に日本野鳥の会三重県支部として誕生しました。その前には、三重野鳥の会として活動していました。しろちどり創刊号に「三重野鳥の会 (任意団体) が 5 ～ 6 人の有志によって設立されたのは、昭和 46 年・・・」と、初代の支部長だった故杉浦邦彦さんが書いています。

私は、日本野鳥の会三重県支部が成立された翌年の 1994 年 3 月に入会しました。学生時代は生物学を勉強し、高校の教員として理科を担当していました。日本野鳥の会に入会したのは、次のような経緯がありました。私の住んでいた桑名郡多度町 (現桑名市) で、ふるさと創生基金を使って町史を作ることになりました。まずは自然史編から作ることになり、大学では植物生理学を専門としていた私が、鳥類を担当することになりました。初めて鳥類に係ることになりました。「困ったな」と思っている私に日本野鳥の会の会員である同僚が、鳥の識別ができるようになるためには、日本野鳥の会に入ること、探鳥会に参加することなどを勧めてくれました。そこで、愛知・三重合同木曽岬鍋田干拓地探鳥会などに参加しました。入会当時勤めていた四日市南高校は、1970 年に亡くなられた倉田篤さんの職場でもありました。倉田さんについては、しろちどり 117 号などに記載されています。

現在、三重県のレッドデータブック作成にかかわっています。この中でいろいろな心配事がわかってきました。今年の夏は毎日 35 度を超える猛暑日が続きました。地球温暖化は、生き物の分布や生息数にも大きな影響を与えています。また、今までにない害虫の発生、それを駆除するための農薬、農薬使用に伴う昆虫全体の減少、こんなことが起きていると語る方があります。昆虫が減ることは、昆虫食の鳥類にも影響を与えます。

輸入された作物は農薬が心配だから、できるだけ国産を買うという方がいます。でも、日本は農薬大国、耕地面積当たりの農薬使用量は世界でも最も多い国の一つです。私が栽培しているナスは虫に表面を食べられて、商品価値はなくなっています。でも、自分で消費するので問題ありません。しかし、生活の糧を得るためなら農薬を使って規格品を作ることになります。日本で販売される野菜は、諸外国と比べてもっともきれいなものです。日本なら規格外になる野菜が、外国では普通に販売されています。

代表交代に伴い、事務局長も長年務めてもらった西村 泉さんから、笹間俊秋さんに代わりました。西村さんも理事として今後も会の運営に協力してもらいます。

事務局だより

活動の記録　(2024 年 4 月～ 7 月)

5/16	ミヤコドリ一斉調査
5 月	会報誌編集作業・入稿
5/25	会報誌「しろちどり 121 号」発行・発送作業
6/16	理事会
6/16	2024 年度日本野鳥の会三重総会　開催
6/19・20	ツバメの子育て応援事業　感謝状贈呈式　19 日 伊勢市、20 日 多気町
7/5 ～ 21	カワウ調査
7/29	夏季ミヤコドリ一斉調査

理事会報告

2024 年 6 月 16 日（日）三重県教育文化会館　出席：11 名　欠席：3 名

【協議事項】

1. 総会について
   役割分担、議題提案、進行内容確認
2. 中部ブロック会議
   日本野鳥の会諏訪支部担当（長野県が担当県）
   9 月 14 日、15 日に開催、出席希望者と提案の確認　チュウヒサミット、サシバサミットについて情報提供など
3. 保険について
   会員が行う探鳥会以外の調査などについて
   ボランティア保険　ミヤコドリ調査、チュウヒ調査、フクロウ巣箱掛け
   傷害保険　新規の代理店に依頼
4. ミヤコドリ調査
   5 月 16 日実施済み、7 月 29 日 12 時から実施。
5. チュウヒサミット
   11 月 16 日 (土曜日) 開催　名古屋市で開催予定
   公益財団法人日本野鳥の会より支援
   日本鳥学会津戸基金に申請中
   財団とオンライン会議　結果を報告予定
6. LINE フリートークについて　状況共有
7. 津市海岸清掃活動について
   5 月 26 日実施、その他いろいろな団体が活動
   シロチドリ営巣時期の回避依頼を
   津市の連合自治会へは、三重県みどり共生推進課から連絡　今後検討
8. 事務局移転に伴う報告　携帯の交換など
9. ツバメの繁殖保護表彰について　　2 件了解
10. 宿泊探鳥会　アンケート結果
    来年はどのようにするか　今後検討
11. 猪名部神社のアオバズク保護看板設置について
    猪名部神社に看板を設置するのにどのようなものが良いか、案作成しその後検討
12. その他

探鳥会予告　2024 年 10 月～ 12 月

● 2024/10/05(土)　高見タカ渡り探鳥会
【集合】08:30　道の駅「飯高駅」

● 2024/10/05(土)・10/06(日)　伊勢タカ渡り探鳥会
【集合】07:30　やすらぎ公園 納骨堂前

● 2024/10/19(土)　秋の東紀州探鳥会
【集合】09:00　道の駅「パーク七里御浜」

● 2024/10/20(日)　香良洲海岸探鳥会　小雨決行！
【集合】13:00　香良洲公園駐車場

● 2024/10/26(土)　三滝川かんさつ会　小雨決行！
【集合】09:30　大羽根グランド駐車場

● 2024/10/27(日)　木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
【集合】09:00　愛知県弥富野鳥園

● 2024/11/12(火)　海蔵川で鳥見 ing!
（バードウォッチング）その 3　小雨決行！
【集合】09:45　海蔵川代官橋 北詰

● 2024/11/17(日)　中村川探鳥会　小雨決行！
【集合】09:30　ファミリーマート嬉野中川店前の駐車場

● 2024/11/23(土)　三滝川かんさつ会　小雨決行！
詳細は 10 月 26 日と同じ

● 2024/11/23(土)　安濃川河口探鳥会　少雨決行！
【集合】13:00　安濃川河口　右岸の先端東屋

● 2024/11/24(日)　木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
詳細は 10 月 27 日と同じ

● 2024/11/30(土)　身近な冬鳥を観察しよう
～博物館周辺の溜池～
【集合】09:30　三重県総合博物館
2 階エントランスホール
【備考】参加予約必要　三重県総合博物館

● 2024/12/01(日)　河内渓谷探鳥会　小雨決行！
【集合】09:00　長徳寺前の駐車場

● 2024/12/07(土)　ベルファーム探鳥会　小雨決行！
【集合】09:30　ベルファーム　匠の館前

● 2024/12/08(日)　員弁川探鳥会
【集合】09:00　県立いなべ総合学園高等学校駐車場

● 2024/12/15(日)　横山池・安濃ダム探鳥会
小雨決行！
【集合】10:00　津市芸濃文化センター駐車場

● 2024/12/15(日)　磯部川水系探鳥会
【集合】09:30　志摩市磯部町穴川駅駐車場

● 2024/12/22(日)　木曽岬干拓地探鳥会　雨天決行！
詳細は 10 月 27 日と同じ

● 2024/12/28(土)　三滝川かんさつ会　小雨決行！
詳細は 10 月 26 日と同じ

探鳥会報告（2024 年 4 月～ 7 月）

●五十鈴川早朝探鳥会

2024 年 4 月 14 日（日）6：30 ～ 8：00
伊勢市宇治今在家町　五十鈴川中流
中西 章　西村 泉　　参加者 23 名（会員 20 名）
キジバト、イカルチドリ、カワウ、アオサギ、コサギ、カワセミ、コゲラ、リュウキュウサンショウクイ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ツバメ、ウグイス、エナガ、メジロ、クロツグミ、シロハラ、オオルリ、キビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、イカル、カワラヒワ　26 種

当日は天気もよく、五十鈴川のせせらぎと新緑の木漏れ日の中、鳥たちの囀りなどを楽しみながら、林道を歩いて行きました。早々と夏鳥のリュウキュウサンショウクイやオオルリなど姿を見ることができましたが、キビタキは、囀りはよく聞こえども、姿を見ることができなかったのが残念でした。帰り際にはクロツグミの囀りも確認できましたので、山の探鳥会としてはまずまずの 26 種とさせていただきます。

●三滝川かんさつ会

2024 年 4 月 27 日（土）9：30 ～ 12：00
三重郡菰野町　三滝川河川敷
矢田 栄史　鈴木 健真　　参加者 13 名（会員 9 名）
キジ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、トビ、コゲラ、サンショウクイ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ツバメ、イワツバメ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、キビタキ、ノビタキ、スズメ、セグロセキレイ、ビンズイ、シメ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ　計 29 種

探鳥会がスタートし歩き出して数分、ヨシ原が少し開けた樹木に何かがとまっている。スコープを急いで合わせて覗くと・・ノビタキだ！じっとしていてくれたおかげで皆さんにスコープで見てもらえました。河原ではセグロセキレイの幼鳥が 2 羽。親鳥に近づいていき餌をねだっていました。夏鳥のサンショウクイが上空を通過したり、林ではキビタキのオスが複数羽見られました。冬鳥のアオジのゆったりした囀りも皆さんで堪能しました。

●五主探鳥会

2024 年 4 月 27 日（土）9：00 ～ 11：00
松阪市五主町 曽原新田 雲出川河口・大池
西村 四郎　小野 新子　参加者 19 名（会員 13 名）
ハシビロガモ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、キジバト、オオバン、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ミヤコドリ、ケリ、チュウシャクシギ、ソリハシシギ、イソシギ、ツルシギ、アオアシシギ、ユリカモメ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、ミサゴ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒバリ、ツバメ、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ、ドバト　計 40 種

天気に恵まれました。去年、一昨年は荒天だったので、ありがたかったです。雲出川河口ではまだ潮が高かったです。満潮・干潮時間にもよりますが、その時の水位が大切で、少し早かった時間設定でした。ここでは、カモ類、サギ類、シギ類などのいつものメンバーが迎えてくれました。その後大池に移動して、ここのエース、ツルシギを見ました。もうほとんど黒い夏羽でした。特筆すべきものは出ませんでしたが、40 種と満足できる内容でした。

●大湊海岸探鳥会

2024 年 4 月 27 日（土）8：30 ～ 10：45
伊勢市 大湊海岸（鷲が浜公園）
中西 章　小坂 里香　参加者 12 名（会員 10 名）
ヒドリガモ、カルガモ、キジ、キジバト、ダイゼン (40)、シロチドリ、メダイチドリ、チュウシャクシギ、キョウジョシギ (10)、ハマシギ (300)、ソリハシシギ、キアシシギ、カワウ、アオサギ、チュウサギ、トビ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ウグイス、セッカ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、ホオジロ、カワラバト　計 29 種

当日は厚い雲で、今にも雨が降りそうな天気でしたが、穏やかで風もなく、快適に探鳥会を進めることができました。この探鳥会の目的である春の渡りのシギ・チドリは、潮が引いてくるタイミングでテトラに集まってくれました。ハマシギやダイゼンを中心とした 300 ほどの群れに、チュウシャクシギ、メダイチドリ、ソリハシシギ、キョウジョシギ、キアシシギなどが混じり、また夏羽と冬羽の違いなど、識別を楽しんでいただけたと思います。草原では、ヒバリやセッカ、ホオジロが繁殖シーズンで、縄張り争いなど行動が活発でした。

●木曽岬干拓地探鳥会

2024 年 4 月 28 日（日）9：00 ～ 12：00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤 義孝　笹間 俊秋　参加者 13 名（会員 12 名）
カルガモ (9)、マガモ (5)、コガモ (9)、ホシハジロ (1)、キジ (1)、キジバト (6)、オオバン (1)、カイツブリ (2)、ケリ (30)、コチドリ (2)、チュウシャクシギ (14)、タシギ (1)、イソシギ (2)、クサシギ (3)、ユリカモメ (1)、カワウ (30)、アオサギ (5)、ダイサギ (4)、チュウサギ (4)、トビ (2)、サシバ (2)、ハシボソガラス (60)、ハシブトガラス (25)、ヒバリ (50)、ツバメ (20)、ウグイス (15)、エゾムシクイ（1）、オオヨシキリ (5)、セッカ (40)、メジロ (2)、ムクドリ (10)、ツグミ (20)、スズメ (30)、ハクセキレイ (1)、カワラヒワ (20)、ホオジロ (20)、ドバト (56)　計 37 種

良く晴れて気温が上がりましたが、心地よい風が吹いて探鳥日和となりました。田んぼにはチュウシャクシギがいて、セッカやケリがたくさん鳴いており、ケリは雛を連れているものもいました。木曽岬干拓地ではオオヨシキリやウグイスが多数鳴いています。カモの姿はめっきり少なくなり本格的な繁殖期を感じさせる季節となりました。

●瀬戸林道探鳥会

2024 年 4 月 29 日（月・祝）9：30 ～ 12：00
津市美里町桂畑　瀬戸林道
奥山 正次　落合 修　　参加者 18 名（会員 12 名）
カルガモ、キジ、キジバト、カワウ、トビ、アカゲラ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ツバメ、イワツバメ、コシアカツバメ、ウグイス、エナガ、メジロ、ミソサザイ、ムクドリ、クロツグミ、オオルリ、キビタキ、イソヒヨドリ、スズメ、キセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ　計 28 種

まず、例年どおりに美里庁舎でコシアカツバメの巣を観察した。数個の巣に出入りしているのが観察出来たが､給餌している様子は無かった。移動しようとした矢先に、そばのポールにイソヒヨドリがやってきて、真上でさえずってくれたが、曇天のせいで鮮やかさを感じられなかったのが残念だった。

桂畑のイワツバメは、出入りが少なくまだまだこれからのようだった。瀬戸林道では、声はすれども姿は見えずで、物足りないままに探鳥会を終了した。

●愛知川探鳥会

2024 年 5 月 11 日（土）8：30 ～ 14：30
滋賀県東近江市甲津畑町　愛知川源流域
辻 秀之　近藤 義孝　　参加者 13 名（会員 8 名）
アオバト、ツツドリ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コガラ、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、センダイムシクイ、メジロ、ゴジュウカラ、ミソサザイ、カワガラス、クロツグミ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、キセキレイ、ハクセキレイ、リュウキュウサンショウクイ、ソウシチョウ　計 28 種

お天気に恵まれて快適な山歩きができました。野鳥は 28 種を数えましたが、大半がさえずりなどの確認だったのは少し残念でした。そんな中でこの探鳥会でお約束の留鳥のミソサザイ、夏鳥のオオルリの姿を参加者の皆さんに楽しんでいただくことができたのは幸いでした。山歩きをするには装備の不十分な参加者の方がいて、企画のアナウンスに当たっての反省点となりました。

●香良洲海岸探鳥会

2024 年 5 月 11 日（土）　13：00 ～ 15：00
津市香良洲町　香良洲海岸 雲出川河口左岸
今井 光昌　今井 鈴子　参加者 19 名（会員 15 名）
カルガモ、ミヤコドリ、チュウシャクシギ、オオソリハシシギ、キアシシギ、カワウ、ゴイサギ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、トビ、コゲラ、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ツバメ、スズメ、カワラヒワ、ホオジロ、ドバト　計 20 種

穏やかな晴天の鳥見日和になりましたが、観察種はこれまでの探鳥会で最も少ない 20 種でした。砂浜や干潟に出て遊ぶレジャー人増加の影響もあるのだと思います。集合場所の香良洲公園のサギのコロニーが楽しませてくれたのが救いでした。

●上野森林公園探鳥会

2024 年 5 月 12 日（日）9：30 ～ 11：00
伊賀市下友生　三重県上野森林公園
南 一朗　前澤昭彦　　参加者 15 名（会員 9 名）
ダイサギ、ホトトギス、コチドリ、トビ、コゲラ、ハシボソガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、コサメビタキ、キビタキ、カワラヒワ、ホオジロ、ソウシチョウ　　計 18 種

この探鳥会ではいつも観られているコサメビタキでしたが、一瞬 2 羽飛んできたところを一部の方が確認できただけでした。ウグイスはいたるところで鳴いていて、キビタキも声だけの登場でした。

●海蔵川で鳥見 ing! その 1

2024 年 5 月 14 日（火）9：45 ～ 12：00
四日市市西坂部町　海蔵川沿い
笹間 俊秋　　参加者 7 名（会員 6 名）

カルガモ、キジバト、イソシギ、ダイサギ、カワセミ、コゲラ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ツバメ、ウグイス、セッカ、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ　計 19 種

良く晴れて探鳥日和となりました。
カモはカルガモ以外全くいなくなっており 寂しい状況でしたが、イソシギがまったりくつろいでいてじっくり観察できました。カワセミは上流と下流を忙しそうに行ったり来たりして、餌を一生懸命探しているようでした。田んぼにはヒバリ、セッカ、スズメやツバメがたくさん飛んでいて、繁殖の真っただ中という風景が観察できました。

●伊雑宮と青峯山探鳥会

2024 年 5 月 19 日（日）9：00 ～ 11：30
志摩市磯部町・鳥羽市松尾町　青峯山
濱口 雅也　末長 薫　　参加者 10 名（会員 8 名）

カルガモ、キジバト、アマサギ、アオサギ、ダイサギ、ヒクイナ、ホトトギス、トビ、コゲラ、アオゲラ、サンショウクイ、サンコウチョウ、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、オオヨシキリ、セッカ、ムクドリ、イソヒヨドリ、キビタキ、オオルリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、イカル、ヤマドリ、カワラバト　計 33 種

今回から、集合場所の伊雑宮周辺でも探鳥する事とし、セッカ、オオヨシキリ、アマサギ、ヒクイナとその雛などが観察できました。

青峯山では、小雨の状況で小鳥の鳴き声はあまりしなかったですが、サンコウチョウの姿を見られたり、地面で採餌していたオオルリのオスとメスを見ることもできました。天気がはっきりしない中でも、参加していただいた皆様ありがとうございました。

●金剛川河口探鳥会

2024 年 5 月 20 日（月）9：30 ～ 11：30
松阪市高須町　金剛川河口周辺
中村洋子　小野新子　　参加者 16 名（会員 15 名）

カルガモ、マガモ、ホシハジロ、キジ、キジバト、ミヤコドリ、ケリ、チュウシャクシギ、オオソリハシシギ、キアシシギ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、ミサゴ、トビ、ハシボソガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ツバメ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、カワラバト　計 29 種

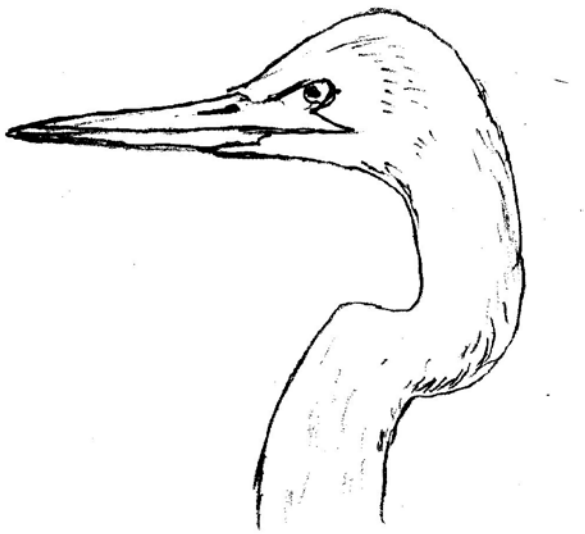
浄化センターの公園では、渡りの小鳥を期待したが見られなかった。ケリのヒナがここで繁殖して、あっちへチョコチョコ動いて可愛かった。見つけた人に感謝！（草に隠れて分かりにくかった）　セッカ、オオヨシキリの声がするが姿は見られなかった。その後河口へ。櫛田川右岸で遠くにミヤコドリ 40 羽くらいいた。その後近くに飛んできた 5 羽を見たらくちばしの先と足が黒くて、昨年生まれの個体だろうか？　遠くにいたのは識別できませんでした（成鳥か若鳥か）。

●三滝川かんさつ会

2024 年 5 月 25 日（土）9：30 ～ 12：00
三重郡菰野町　三滝川河川敷
矢田 栄史　鈴木 健真　　参加者 19 名（会員 13 名）

カルガモ、キジバト、カワウ、イカルチドリ、トビ、オオタカ、コゲラ、チョウゲンボウ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、スズメ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ　計 22 種

ハイライトはカルガモの親子でした。親鳥 1 羽と幼鳥 4 羽が一緒に行動していました。このかんさつ会ではあまり見られない猛禽類がチョウゲンボウ、オオタカ、トビと 3 種類出現しました。チョウゲンボウは獲物を抱えて飛んでいました。スズメの幼鳥も見られ、鳥たちの繁殖期らしいかんさつ会となりました。



ダイサギ

●木曽岬干拓地探鳥会

2024 年 5 月 26 日（日）9：00 ～ 12：00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤 義孝　笹間 俊秋　　参加者 10 名（会員 8 名）
カルガモ (40)、マガモ (7)、ホシハジロ (2)、キジ (1)、キジバト (6)、ケリ (20)、コチドリ (8)、タマシギ (2)、チュウシャクシギ (2)、キアシシギ (2)、カワウ (10)、アマサギ (1)、アオサギ (4)、ダイサギ (8)、チュウサギ (15)、コサギ (1)、トビ (1)、カワセミ (1)、チョウゲンボウ (1)、ハシボソガラス (60)、ハシブトガラス (3)、ヒバリ (15)、ツバメ (15)、ウグイス (4)、オオヨシキリ (10)、セッカ (20)、メジロ (1)、ムクドリ (25)、スズメ (15)、ホオジロ (5)、ドバト (10)　計 31 種

良く晴れて少し暑い日になりました。

田んぼにはケリがたくさんいて子育て中のケリは威嚇してきます。サギ類はチュウサギが多かったですが白いアマサギもいました。タマシギの姿を見られた参加者もいたようです。墓地には空きスペースの砂利の中でコチドリが繁殖しており雛の姿も見られました。

●音無山探鳥会

2024 年 6 月 1 日（土）9：00 ～ 11：30
伊勢市二見町茶屋・音無山
濱屋 勝則　西村 泉　参加者 18 名（会員 16 名）
アオサギ、トビ、コゲラ、ハシブトガラス、ヤマガラ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、キビタキ　計 11 種

今回の音無山探鳥会は初のフィールドという事と、標高 119.8m の低山であり時期的に夏鳥の訪れが期待できるであろうと、参加者の皆さんと楽しみにしながら山歩きしましたが、あいにくとキビタキの声を確認しましたが姿は見られず、他に確認した野鳥に関しても少数だったので残念でした。

●御在所岳探鳥会

2024 年 6 月 1 日（土）9：15 ～ 12：00
菰野町 御在所岳
笹間 俊秋　近藤 義孝　参加者 15 名（会員 10 名）
ハシブトガラス、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ツバメ、イワツバメ、ウグイス、ミソサザイ、オオルリ、キビタキ、キセキレイ、ホオジロ、ソウシチョウ　計 13 種

風も無く良く晴れて、山頂はさわやかな気候でした。キセキレイやホオジロがとまっていて、皆さん夢中で観察されていました。遊歩道では近くでウグイスが鳴き、遠くの杉の木にはオオルリが囀りスコープでじっくり見ることができました。鳥の数は少なかったですが、皆さん山の鳥を堪能されたようです。

●ひるがの高原・晋正寺の森 宿泊探鳥会

2024 年 6 月 8 日（土）8：10 ～ 9 日（日）16：30
岐阜県郡上市高鷲町・金沢市
笹間 俊秋　近藤 義孝　　参加者 28 名（会員 28 名）
【8 日】ホトトギス、カッコウ、キジバト、コゲラ、サンショウクイ、モズ、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ツバメ、ウグイス、ムクドリ、コムクドリ、イカル、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ　　計 16 種
【9 日】ヒドリガモ、カルガモ、マガモ、コガモ、ホトトギス、キジバト、オオバン、ウミネコ、アオサギ、ダイサギ、ハイタカ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ツバメ、ウグイス、エナガ、ムクドリ、コムクドリ、キビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ　計 28 種

心配された天気も雨は降らず、ひるがの高原では晴れて暑いくらいでした。鳥は少なめでしたが自然を満喫できました。翌日は曇りで気温は上がらず探鳥には最適でした。海岸では遠くにミズナギドリらしき鳥も見られ、皆さん熱心に観察されていました。

●三滝川かんさつ会

2024 年 6 月 15 日（土）9：30 ～ 12：00
三重郡菰野町　三滝川河川敷
矢田栄史　鈴木健真　　参加者 32 名（会員 9 名）
カルガモ、キジバト、チュウサギ、トビ、オオタカ、カワセミ、コゲラ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ　計 21 種

イオンチアーズのお子さんと親御さんも参加の三滝川かんさつ会となりました。

オオタカが上空をかなり長い時間旋回して、参加者の皆さんを楽しませてくれました。

メジロの相互羽繕いが見られ、恐らくほとんどの皆さんにスコープで覗いていただけたと思います。終わりがけにはカルガモの親子も見られました。

●霊山寺探鳥会

2024 年 6 月 16 日（日）8：30 ～ 11：00
伊賀市下柘植　霊山寺
前澤 昭彦　南 一 朗　参加者 6 名（会員 2 名）

キジバト、アオサギ、ホトトギス、ツツドリ、トビ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、メジロ、セッカ、クロツグミ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、スズメ、カワラヒワ、キバシリ、ソウシチョウ　計 24 種

キビタキ、オオルリ、ホトトギス、ツツドリなど夏の野鳥の声を楽しむことができました。コサメビタキも観察できました。最後にキバシリも出現しました。参加人数は少なかったけども、有意義なひと時となりました。

たまたま拾ったトビの初列風切り羽（P9）がありましたので、羽一枚でどれくらいの空気抵抗がかかるか、一人ひとりで体験してみました。

●木曽岬干拓地探鳥会

2024 年 6 月 23 日（日）9：00 ～ 12：00
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曽岬干拓地
共催団体／愛知県野鳥保護連絡協議会
近藤 義孝　笹間 俊秋　　参加者 6 名（会員 5 名）

カルガモ (50)、マガモ (6)、ホシハジロ (1)、スズガモ (1)、キジバト (2)、ケリ (10)、コチドリ (3)、イソシギ (1)、コアジサシ (20)、クロハラアジサシ (2)、カワウ (20)、ゴイサギ (1)、アマサギ (1)、アオサギ (25)、ダイサギ (10)、チュウサギ (5)、コサギ (1)、ミサゴ (1)、トビ (2)、カワセミ (2)、コゲラ (1)、ハヤブサ (1)、ハシボソガラス (50)、ハシブトガラス (15)、ヒバリ (20)、ヒヨドリ (5)、ツバメ (17)、ウグイス (10)、オオヨシキリ (4)、セッカ (20)、メジロ (2)、ムクドリ (70)、スズメ (100)、ハクセキレイ (1)、カワラヒワ (10)、ホオジロ (5)、ドバト (60)　計 37 種

早朝まで雨が降っていましたが開始までには止み、途中少し降られましたが濡れることはありませんでした。干拓地からハヤブサが獲物を持って林の中へ消えていきました。営巣しているのかもしれません。鍋田川の溜池に 20 羽ほどのコアジサシが魚をとっており、その中にクロハラアジサシも 2 羽混じっていました。

●足見川探鳥会　熱中症警戒アラート発令中の為中止

2024 年 7 月 7 日（日）10：00 ～ 10：15
四日市市山田町　足見川
笹間 俊秋　　参加者 20 名（会員 12 名）

ホトトギス、キジバト、ケリ、カワウ、チュウサギ、サシバ、ハシブトガラス、ヒバリ、ヒヨドリ、ツバメ、コシアカツバメ、ウグイス、セッカ、スズメ、ハクセキレイ、ホオジロ　計 16 種

前日から良く晴れて熱中症警戒アラートが出ていたので、日陰で解説だけして探鳥はせずに解散となりました。それでも始まる前に上空をサシバがつがいで旋回してくれたので、皆さん喜んで観察されていました。

編集後記

科学技術の発達で、通信手段が次々に変化する。古くは手紙、すなわち、紙に書かれた文字がほとんど唯一の通信手段であった。近代になってから、ラジオが花形だった時もあった。その後、テレビ、映画。

今はインターネット、スマホの時代だろうか？　会員の LINE では野鳥の写真が花盛りである。いずれにしても簡単に情報が伝達できる。それも分かりやすい画像で、動画で、おまけに音声までついてくる。一方の紙を媒体とした雑誌や本でも、ページをすべて文字で埋め尽くしたものよりも、昨今は写真の多いものが好まれているようだ。

しかし、野鳥の世界でも、写真や動画だけでは分からないことがいくつもある。野鳥の生態。野鳥の増減、生息域の変化、それと環境の変化との因果関係。やはり、文章による説明が必須である。ネット上では野鳥に関する文字情報は意外に少なく、それも限られた字数のものが多い。この会報「しろちどり」では文字による情報を大切にしたいものである。(M.H.)

しろちどり　122 号
2024 年 9 月 1 日発行
題　字：濱田 稔
表紙絵：平井 正志
カット：平井 正志
編　集：平井 正志・笹間 俊秋・三曽田 明
発行所：日本野鳥の会三重　近藤義孝 方
〒 511-0123 三重県桑名市多度町北猪飼
ホームページ　http://miebird.org/
印　刷：株式会社プリントパック
〒 617-0003 京都府向日市